<認知症対応型共同生活介護用>

評 価 結 果 報 告 書

事業所番号	4372800740
法人名	医療法人　潤幸会
事業所名	ひまわり
訪問調査日	平成　20　年　1　月　23　日
評価確定日	平成　20　年　2　月　18　日
評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等　＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族　＝家族に限定しています。

運営者　＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝　管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム　＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成 20年 2月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	4372800740		
法人名	医療法人 潤幸会		
事業所名	ひまわり		
所在地	熊本県上益城郡山都町下市59番地 （電 話）0967－72－1006		

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3－13－12－205		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価確定日	平成20年2月18日

【情報提供票より】（ 20 年 1 月 5 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成13年4月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	7 人	常勤 3 人，非常勤 5 人，常勤換算 6.4

（2）建物概要

建物構造	木造鉄骨 造り
	1 階建て

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	22,500 円		その他の経費（月額）	12,900 円	
敷 金	無				
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1250 円				

（4）利用者の概要（ 1 月 5 日現在）

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名		要介護2	3 名	
要介護3	1 名		要介護4	2 名	
要介護5	1 名		要支援2	名	
年齢	平均 87.1 歳	最低	70 歳	最高	101 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	伴病院 希望ヶ丘病院 野田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院との医療連携をはじめ年間研修計画による職員育成が確立し、入居者への確かなケアに繫げている。地域性を生かし昔ながらの町の行事や催しものに積極的に参加し、地元の人々との交流を支援している。防災対策も年二回実施されているが、今後は地域全体で大規模な災害を想定した訓練を行なう意向であり、地域貢献に向け意欲的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	食に対する楽しみごとの支援としてホーム内への出前食や月一回外食の機会を設けたり、認知症に対する啓発を各方面で行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価については全員でカンファレンス時に内容を検討しホーム長がまとめあげた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	入居者の活動内容の報告や認知症に関するミニ講話・VTR観賞を通じ啓発に努めたり、会議参加者より地域の行事や情報の収集によりホームの活動に反映させている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族が意見や意向を出しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、ホーム玄関に公的な相談機関のポスターを掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地元の活動に積極的に参加し地域の中の一員としての生活を支えている。有事の際には近隣者の協力も得られる体制づくりが確立している。

2. 評 価 結 果（ 詳 細 ）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目 →（○印）

外部	自己	項 目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“住み慣れた地域で、慣れ親しんだ人たちとともに普通に暮らし続けること”が、理念に盛り込まれ地元で暮らす喜びや生きがいを支援している。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎回勉強会で理念について話し合いの場を持っている。理念が掲載された冊子を全職員が携帯し、勉強会後はレポート提出することにより意識向上に努めている。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昔ながらの町の行事や催しものにも積極的に参加し地元の人々との交流を深めている。日常の買い物は近隣商店街を利用し馴染みの関係構築に努めている。母体老健施設の行事にも毎回5，6名の参加がある。	○	今後更に、地域の老人会へも働きかけ行事等へ参加する機会を持つことを期待する。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全員でカンファレンス時に内容を話し合い検討した。外部評価に於いては運営推進会議で結果を公表している。改善内容で日常の楽しみ支援の一つとして月一回の外食・出前食を取り入れたり、中高生の実習時に認知症についての講話を行い、年代を問わず啓発に努めている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度行われる運営推進会議が定着し、会議では毎回議題を設定しホーム便りを見ながら入居者の活動報告や認知症に関してのミニ講話・VTR観賞を行っている。又、毎回委員会メンバーより地域行事や情報が報告され入居者の活動に反映されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での繋がりが薄い為、ホームの近況報告をこまめに行い、他の施設の情報提供を受ける等の関係づくりに努力している。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年四回のホーム便りやケアプラン説明時、又は面会時など必要に応じ報告を行っている。		
8	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の際に家族からの意見・意向を聴取し、出された内容については速やかに話し合い、日々のケアに反映させている。又、管理者は入居者や家族に「職員に遠慮せず何でも伝えてください！」と、意見・要望が言いやすい雰囲気づくりに配慮した声かけをおこなっている。		
9	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少なく、入居者は慣れ親しんだ職員と穏やかな日々を過ごしている。又、ホーム側も職員と入居者の良い関係が継続するよう職員の働きやすい環境作りとしてストレス軽減に向けた取り組みやできるだけ希望休にそえるよう配慮している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体病院からの研修情報提供があり、地域、民間主催の研修会出席等を勧め、職員のレベルアップに努めている。又、法人の19年度施設内計画は各月のテーマにより目的・到達目標・方法・指導者など細かく作成されている。新採用職員教育は、安心・自信を持って勤務にあたることができるよう個別に実施している。		
11	20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域主催の研修会や近隣グループホームとの相互関係を通じ、質の向上に努力している。	○	ホーム長は他の運営推進会議に出席し交流が図られており、今後職員同士のつながりも深まることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者の自宅を訪問し本人や家族の意向を把握したり、事前のホーム見学など他の入居者との関係も考慮し、徐々に馴染めるようにしている。	○	今後、できるだけ入居前の来所機会を増やすことにより少しでも早く職員・入居者と馴染みの関係となるようにしていきたい意向であり、来所の機会を増やしていただきたい。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族からの情報提供を受け“生活会議”の中でこれまでの得意としてきた場面をできるだけ引き出していけるようにしている。又、職員は常に入居者への感謝や労わりの言葉かけにより共に支えあう関係を構築している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・職員は入居者や、家族の希望・意向をその都度聴取したり、意思表示の困難な入居者へも日々の関わりや家族との会話の中から思いを見出し対応している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	モニタリング・ケアカンファレンス・申し送りによりプラン作成が行われている。出来上がったプランには説明し同意を得ている。来訪が困難な家族へはホーム長が自宅を訪問し現況報告を兼ねプランの説明を行っている。今後は全員の家族とゆっくり話し合う時間を作りプランに活かしたいとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行っているが現状に応じて即時な変更は行われていない。	○	高齢化や急激な変化に即したプランの見直しを職員・家族と話し合い即時に行うことが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診対応や買い物支援など柔軟に対応している。今後はホームにあるギャラリー空間を地域とのコミュニケーションの場として活用していきたいと模索中である。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ベースは協力病院対応であるが他の病院受診へも家族と共に職員も同行するように努めている。職員による受診対応時も変化のあるなしに関わらず必ず家族へ状況報告を行い、変化がある場合は主治医より説明を行い治療方針を話し合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院、検査等により今後重度化すると思われる入居者には、主治医と家族がインフォームドコンセントを行い方針を決めている。	○	家族は最後までを希望されているが現時点ではその体制まで至っていない。家族の安心に繋げるためにも今後に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の明るい声かけや目線での対応、手引きの際の優しい声かけに人生の大先輩として尊厳の念を持っての対応を確認できた。本年度の目標の中に“個人情報を厳重し守る”事を謳いケアカンファレンスで使用したメモ用紙を持ち出さないなど徹底しており、勉強会で個人情報を議題とする等意志の統一を図っている。より確実な個人情報保護の為にシュレッダー購入を検討されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に“個人の尊厳”を謳い、個別援助を基本とするケアが行われている。食事は皆が席に着き食べ始める時もあるが、温かいものは温かいうちに、又、お腹が空いて待てそうにない入居者へは先に勧めたり、食事に時間を要する入居者へも優しい声かけと見守りによる支援等時間の決まりや職員の都合を優先しない入居者のペースを尊重した風景であった。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホームで作り、昼・夜は母体病院より調理された料理を、食器や盛り付けに配慮しながら提供している。移動販売による豆腐やパンが朝食に並ぶことが楽しみの一つになっている。配膳・片付け等入居者と職員が一緒に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週二回昼食後の入浴支援である。ゆず湯や菖蒲湯等の季節風呂、夏場は必要に応じシャワー浴を行っている。年に数回弁当を作って出かける温泉施設での入浴は楽しみの行事となっている。	○	職員のシフト調整などにより、入浴支援回数を増やすことを検討いただきたい。
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本情報の中で各々の生活暦を把握し、趣味や得意分野が発揮できるよう支援している。掃除や洗濯物たたみ・食事の配膳・下膳・茶碗洗い・拭きなどの作業が行なわれ、特に箸を束ね軽やかにふきあげる姿はまさに家庭の主婦そのものであった。豆腐の移動販売者の笛の音に気づき職員に知らせるやり取りにホームの和気あいあいとした日常が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や母体施設でのレクレーション参加など天候や体調に合わせ支援されている。	○	今後もできるだけ個々に合った外出支援を行いたい意向であり、個別外出の機会が更に多くなることが期待できる。
（４）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害は全職員が理解している。交通量の多い道路に面している為、玄関にやわらかい音色のチャイムを取り付け、職員の気づきや見守りで鍵をかけないケアの実践に取組んでいる。近隣住民の協力も得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署員・家族・近隣者も参加し昼・夜を想定した非難訓練を母体施設との合同で実施している。運営推進会議メンバーに元消防団長の参加があることが心強く、会議の中で色々な防災に関する情報提供が行われている。煙探知機の設置や法人全体との協力体制が構築している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく自力で食べることができるようセッティングや見守りに配慮し、医師や栄養士の指導を摂り入れた献立に必要に応じ捕食を加えている。水分確保においては、お茶や牛乳・コーヒー・手作りシソジュース・スポーツドリンクなど食事時や定期的な声かけにより本人の好みも取り入れた支援である。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を兼ねたリビングには天窓があり採光もよく、季節に合わせた品物や入居者の共同作品が飾られている。リビングには段差のない畳スペースに置かれたソファーに手作りクッション・足置きボックスを用意しゆっくり寛げる空間である。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に馴染の家具など依頼しているが全体的に少ないようである。居室内を清潔に保つことや家族・職員の持ち寄った季節の花を飾ることで工夫している。今後も入居者が居心地よく過ごせる居室づくりにホームと家族の協力・理解に努めたい意向である。		

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひまわり
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	熊本県上益城郡山都町下市59番地
記入者名 （管理者）	澤村　京美　（豊野　恒子）
記入日	平成　20年　1月　5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	〇地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人潤幸会理念 ひまわりの理念	〇	
2	〇理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内教育の時間で、理念についての勉強会があった。	〇	定期的に読み直し、再確認する時間を作っていきたい。
3	〇家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・入居時の説明 ・玄関の掲示 ・地域連携会議の活用 ・医療法人潤幸会の1回／2ヶ月の介護教室	〇	地域の行事への参加ができるようになる。
2．地域との支えあい				
4	〇隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物など外出の際に挨拶し、声を掛けてもらったりしている。野菜の苗を頂いたり、近所の方に備品を修理してもらったりしている。		玄関のドアを開放し、特に夏場には涼をとるなど気軽に寄ってもらえる工夫を続けていく。
5	〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	そうめん流しや祭りなど地域の行事の案内を受け、参加している。　地域連携会議で協力をしてもらっている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	〇事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が来られることがあっても、こちらから地域のお手伝いには行けてないのが現状である。	〇	ギャラリーを町の休憩室に開放することを予定していたが、現在雨天の日のまたは入浴日の洗濯室となっている。トイレの管理や洗濯物の置き場所がないためそのままの状態である。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘されたところを改善できるように話合い改善に努めている。	〇	経済的なことや、スタッフの配置の関係でまだまだ改善されてないところがある。なるべく近づけるよう検討工夫していきたい。
8	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でひまわりの日常を写真入りで説明し、日常のケアを知ってもらっている。地域の行事への参加や防災訓練に参加してもらっている。	〇	もっと施設内に入ってきてもらう機会をもうける。
9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に行き来することがない。	〇	役場担当者との連携を深め、施設の実状を知ってもらう必要がある。
10	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会へ参加した。 地域連携会議でも説明してもらった。	〇	職員全員が理解しているとはいえないので、講習会や資料の掲示など工夫する必要がある。
11	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を全体会で行い、虐待の種類内容を学習し職員間でも注意している。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時の説明を充分にする。日頃から連絡を密にし、疎遠になりがちな家族には出かけてプランの説明をする。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者はスタッフに意見・希望を言う人が多く、カンファレンスで決めていく。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ひまわり便りの配布、ケアプランの説明の時、面会時また変化があったときに報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	医療法人潤幸会全体の苦情をひまわりの家族より頂いて解決した。（1件）		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長企画で定期のケアカンファレンスを全員集合で行っている。その結果をホーム長は管理者・運営者に報告している。又、臨時にカンファレンスのため招集することもある。		内容により運営者・管理者もカンファレンスに出席し、意思の疎通を密にしたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	他科受診、行事など余分に職員が必要な場合は早めに人員確保できるように調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	考慮している。（夜勤者など同じ職員をできる限り少人数にし、離職時などの影響を少なくしている。）		異動は少人数にとどめながらも、マンネリ化によるダメージがないようにしたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・県、特に上益城地区主催の研修会への出席 ・民間などで行っている研修会の情報の提示をし、希望する研修会への出席を勧める。 ・CM研修会のうち、スタッフを含む研修への出席		
20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・上益城地域の研修会出席 ・コ　ケアなどの研修会出席	〇	
21	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・報告、連絡、相談ができやすい体制づくりをして、対策へ早めに対応できるようにしている。 ・法人内での行事に参加して交流を図る。 ・勤務表に本人の希望を組み込むことへの支援。	〇	左記を尚一層充実させていく。
22	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・同業者の情報を識った上で、職員の技能や個性等に合わせて、勤務表作成や役割分担をしてあるかの確認。 ・長所を認める。		公的・民間を問わず、医療法人潤幸会に来る情報を共有化している。又、希望の研修会は出張伺いを出す。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の施設見学はしている。入居者本人に会い話す機会を増やすようにしている。	〇	より早く情報収集し本人を理解できるように努める。
24	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設の中に入っていただいて、実際の雰囲気と、ケアを見てもらっている。面会時に細かい情報・希望を教えてもらっている。	〇	定期的に「家族の会」を開きたいと思っているが時間調整が難しい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人、又それまで関係していた介護サービス業者などから情報を得る。そして、家族・本人の実際と心身の状況から判断して、ケアプランを作成する。	○	東京センター方式により近づくプランを作成し、職員への徹底、本人・家族・地域と協働して行くよう努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新入居者は1名いらっしゃったが、家族の希望で直ぐ入居が開始された。	○	入居前に来所してもらう機会を増やし、少しでも早く全員の職員とも馴染みの関係になれるようにしていきたい。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中でご本人が得意としているものに関しては、助けてもらっている。実際にすごく助かっていることも多く学ぶことも多い。	○	利用者の得意とするものをより多く引き出せるようにしたい。そして活躍する場面をもっと作りたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にゆっくりお茶を飲みながら、話をする時間をとっている。その会話の中から本人にとって有効となるものを協力してもらっている。	○	協力を求めても、中々してもらえない家族も多い。家族と話し合いもっと関わってもらえるようアプローチしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事の参加など来所を促し、もっと関わっていただけるように勧めてはいる。	○	関わりやすい事柄の検討。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時、以前住んでいた知人の家へ遊びに行ったり、親しい方にひまわり便りを送っている。前の病院に受診に来られるので、声をかけ立ち寄ってくれるよう勧める。	○	もっと帰宅できるように家族の協力を得るため説得するがなかなか帰宅には至らない。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	合う合わないを把握し、接する距離やその方達の精神状態を見ながら接している。 居室の検討	○	必要に応じては、入居者の病状など伝え協力してもらう体制を作り、役に立っている自覚が出来るよう支援していく。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後顔を見に行ったりしている。後は死亡退所である。	○	地域柄グループホームの入居希望者が多いわけではないので、地域の人々にグループホームの特徴を伝えていただく。

Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

１．一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報収集又、毎日接している中での言動や表情を見、スタッフ全員が情報を共有しケアカンファを行い検討している。	○	過去そして今の毎日の生活に十分生かしていると思われるが、今後も続けていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人からの情報収集。（入居前のサービス利用の記録などからも）	○	行ける方は帰宅し、近所の友人宅へ訪問したこともあるが、少人数である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間で申し送り、個人ケア記録などで情報を収集している。	○	9人（今は8人）が各々他の入居者の性格や生活パターンをわかろうとし、生活の知恵で解決しようとしている。

２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	モニタリング、ケアカンファレンス、申し送り、家族からと聴取しているが、全員の家族とはゆっくり話せていない。	○	家族に協力を得、ゆっくり話せる時間をつくってもらう。又、モニタリングやアセスメントの記録をスタッフにも参加してもらう。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	あまり変化はないが、変化に応じて即時に計画作成は出来ていない。	○	現状に即した計画の見直しが出来るようにしたい。

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り簿や個人ケア記録を見たりスタッフの話を聞き、計画を立てている。	○	ケアプランをもとにしてスタッフ間の情報の共有化を図り、実践していくサイクルづくりを継続していく。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他科受診時、家族が不安がったりされるときは同行している。		充分でないので、地域包括支援センターとの連携をとり、できることを検討していく。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に参加してもらっている。消防は火災訓練に入ってもらっている。警察は訪問時あがってもらいお茶を飲みながら話をしている。その際入居者と話すきっかけをつくる。	○	教育機関（保育所・学校）は隣接している老健施設にきたとき参加している。ひまわりにもきてもらう機会をつくる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今は老健への行事などへ参加しながら、他者・他の施設へ慣れるようにしている。（イベント会場などへのバスハイクを含めて）	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターから権利擁護の講習会を行ってもらった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	変化がなくても受診状況はお知らせしている。変化があれば、病状説明を主治医にしてもらい、家族と治療方針などを話し合っている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時や変化のある時など相談にいっている。又Drが時々来られる。		
45	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	上記と同じく行っている。		
46	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院へ行き現在の状況を聞く。本人にも会い状況を知る。		
47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	検査等により今後重症化すると思われる方には主治医と家族がインフォームドコンセントを行い、方針を決めている。		
48	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	遠方で中々来られない家族には自宅訪問し、プランを持っていく際に話し合っている。当施設では酸素吸入、経管栄養は行っていないので、悪化すれば直入院できるような連携体制はとっている。		
49	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	対象者がいない。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尿失禁の激しい人など下着が増えるのを気にされている。洗濯の取り入れのときに別に渡している。ケアカンファレンスで使った紙は持ち出さないように意思の統一を行っている。	○	なじみの関係になると、ことば使いが悪くなりがち、職員間でお互い注意するように気をつけたい。
51	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何もないと決められない方は、ある程度の選択肢をもって行ったり、言葉で表現できない方は行動や表情を見、検討はしている。	○	本人の思いを理解しようとはしているが、思い込みの可能性もある。スタッフ間で些細な情報も共有していきたい。
52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩コース、距離など個々にあわせて行っている。	○	入浴日に時間帯が決められている。夏場など汗のよくかく人はシャワーをしたりはしている。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族に連れて行っている。化粧品などはいつも使っているものをかいにいったりしている。	○	全員は出来ていない。
54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時々出前や外食を行っている。食事は一緒に準備片付けをしている。	○	台所に立つのが嫌いな方もおり、無理強いはしないのでされる方は決まっている。
55	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる方はいない。お酒はお正月に屠蘇を飲む程度。	○	コーヒーなどつくって飲まれるのは1部の方。他のかたも自由に飲もうと思えるように工夫したい。

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便排尿の上体を把握し、食事水分量を検討している。又必要なら下剤を処方してもらい使用している。		
57	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来ていない。	○	夏場のシャワーは自由にしてもらっている。
58	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に起こしたりはしていない。自由にしてはもらっているが何もしないとすぐ居眠りされ、昼夜逆転する方もおられる。体操や散歩で日常の生活リズムを整えている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、外出、料理など好きなことをそれぞれ行ってもらっている。好みがはっきりしていない人のいる。	○	もっと自由に個別で出かけられるようにしていきたい。
60	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は所持してもらっている。管理できない方は、立て替え金で支払いを行っている。		
61	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	鍵は掛けづに出られるようにはしている。嫌がられる方は遠めで見守りをしている。	○	引き止めたりはしていないがひまわりの前くらいで遠くに行かれる方はいまはいない。
62	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	芝居鑑賞、バスハイクなど誕生日にあわせて行っている。	○	人によっては回数はすくない。個別に出かけられるようにしたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	とおくの家族から届き物が来たときなどお礼の電話をしている。自分からは気がつかない人はこちらで声掛けをしている。	○	年賀状など書くこと促すが嫌がられる為こちらでだしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者のなじみの人に来てもらえるよう声掛けをしている。訪問された場合、好みにより自室でゆっくりはなしてもらっている。		
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は常に掛けていない。（夜間防犯上施錠している。）扉にチャイムをつるして、確認は出来るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の把握はしている。職員は入居者だけにならないよう気に掛けながら行動している。夜間すぐ各部屋に行けるようにフロアで休んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険のない方ははさみなど自由に使ってもらっている。夜間包丁や薬品は鍵のかかるところにいれている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの身体状況を知り、注意している。立ち上がり嚥下状態等。台所に立つ際背を向けることになるので鏡を見ながら注意している。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルはある。	○	定期的な訓練は出来ていない。
71	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回合同でおこなっている。（消防署員・家族参加）火災報知機設置。		
72	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクを伴っても日常あまり規制しないことが必要と説明はしている。	○	家族によっては理解してくれないところもあっている。徐々に説得していく必要あり。
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り簿や個人記録により職員間で情報を共有している。必要であれば早めに受診している。		
74	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り簿やメモを貼り全員が知るようにしている。		
75	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養バランスの取れたものは食べているが、季節により運動不足になる。室内で体操などの運動は毎日している。		本人の排泄リズムを把握し必要なときは下剤を使用している。
76	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来る人は見守り、出来ない人は毎食後こちらで口腔ケアをしている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく自力で食べられるようセッティングしたり必要に応じて介助したり、補食をつけたりしている。水分量は尿量や色また、定期的な声掛けで水分補給している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルをつくり、講習会を行っている。又マニュアルは見えやすいように貼っている。来訪者の手洗いうがい。空気清浄機を使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的なまな板・ふきん・包丁の消毒。手洗いの遂行。		
	２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇にチュウリップなど植えている。3月は通りが見えるように雛人形をかざっている。	○	空調の関係で玄関が閉まると入りにくい様子、工夫が必要。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節に関するものを飾っている。入居者と一緒に作ったタペストリーを飾っている。皆が集まるところにクッションをいくつか置き足を乗せたり、背もたれにしたり自由に使っておられる。テーブルに新聞を置いていると見ておられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いている。時々座っておられる。	○	狭いので椅子しか置いていないが、何か楽しめるものを検討している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ってきている人もあるが、何もない方もいる。	〇	今後も引き続き家族に協力を求めていく。
84	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は定期的にしている。加湿器、空気清浄機をしようしている。各部屋に消臭剤は置いている。	〇	高窓が台所、浴室などにあるので極寒日以外は換気している。
85	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		〇	深い浴槽をどうにかしたい。
86	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々出来ないポイントを知り、さりげなく声掛けをしている。認知症重度の方でもきっかけを作れば混乱なくできたりする。	〇	入居者同士が他入居者に個性があることを認めているが、今後も続けていく。
87	〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	野菜や花の植え付け。過ごしやすいときはそとにすわり、近所の方とお話などしている。	〇	洗濯干しも体調に合わせて実施している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に〇をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	〇	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		〇	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		〇	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		〇	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	〇	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		〇	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		〇	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に〇をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		〇	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		〇	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	〇	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		〇	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		〇	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・何か変化があればすぐに対応できる医療体制は整っている。ゆっくり落ち着いた雰囲気である。